

R1. 12-27
タイムス

絵を解く 452

郷土への思い

カレンダーに託す

写真の桐生倶楽部会館のスケッチ画は、透明水彩画家の大須賀一雄さん（東京都武蔵野市在住）が今夏に仕上げた作品だ。JR東日本大人の休日倶楽部の2020年カレンダーの4月を飾っている。大須賀さんは桐生とのゆかりが深い。紙面でもたびたび紹介しているが、とにかく異色の人だ。

国鉄足尾線では機関助手として罐焚き^{かま}に励み、電車の運転士をしながら独学で英語を学び、JR東日本国際課に異動して後は、通訳として重要な場面で活躍した。

JR東日本絵画倶楽部の初代事務局長となり、カレンダーを通じて駅舎画家の地歩を固め、海外スケッチの旅、個展開催と、80歳を超えたいまも精力的な活動は変わらない。そして、郷土のために何かができるかと常に考え、行動する姿勢を持ち続けている。

庭の隅に椅子を組み立てて腰掛け、会館と向き合った日を共にした。その一筆一筆に、桐生への思いを託した作品である。

（葉）

